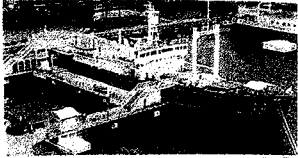




# 九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No. 123

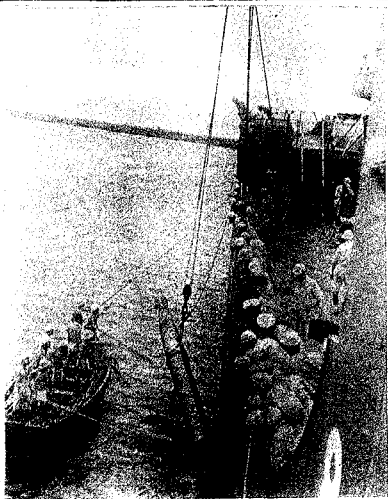
2010(平成22)年1月29日(金)発行



船の科学館に展示される宗谷

<1957(昭和32)年1月29日、日本の南極観測隊、オングル島に上陸>  
 ○前年11月8日に砕氷船「宗谷」で東京港を出港した観測隊は、この日午後8時57分、南極大陸リュツォホルム湾東のオングル島に上陸。永田武隊長(東大教授)は「昭和基地」と命名した。この帰途、「宗谷」は氷にとじこめられ、ソ連の「オビ号」に救援される。○「宗谷」は現在、東京お台場の「船の科学館」に展示されています。

## 読者の所蔵写真 南極観測船に激戦の過去



### ▲不発魚雷を引き揚げる「宗谷」

(1943(昭和18)年1月、西牧栄さん撮影)  
 ◆西牧敬子さんのご主人の西牧栄さんは海軍軍医として特務艦だった「宗谷」(2700トン。戦後、南極観測船として活躍)に乗船していたが、昭和18年1月28日早朝、ニューギニア東方のブカ島付近で米潜水艦の魚雷攻撃を受けた。魚雷は奇跡的に不発で、その回収風景を栄さんは自分のカメラで撮影していた。

◆それから60年後の2004年夏、敬子さんの孫で当時高校生だった八木沼瑞紀みずきさん(現在・慶応大医学部1年生)は、敬子さんが福島県石川町の実家で見つけた古いネガフィルムに興味を持った。それは栄さんが戦地で撮った116コマで、撮影地と日付が克明に記されていた。プリントしてみると特にこの1枚が目につき、朝日新聞の連載「写真が語る戦争」に応募し大きく掲載された。



この「宗谷」の写真は「朝日新聞の秘蔵写真が語る戦争」(朝日新聞出版・千八百円)に掲載。歴史の証言となる貴重な写真が満載です。

○ 東京市ヶ谷小学校に入学  
 昭和十一年四月 牛込区(今の新

夫が撮影した写真がきっかけで、昨年、朝日新聞出版から『秘蔵写真が語る戦争』という一冊の本が発行された。その中に海軍軍医として「宗谷」に乗り込んだ私の主人(※西牧栄さん)の撮った一枚の写真も偶然載ることとなった。そしてその本の巻末の年表は、図らずも、私の青春時代を戦争と重ね合わせて振り返るきっかけとなった。

○ 昭和十五年 紀元二千六百年式典。  
 昭和十六年 国民学校と改称。  
 関西への修学旅行は中止。十二月  
 大東亜戦争の開戦。  
 昭和十七年 東京府立第十九高

校に転校。朝礼の後、明治神宮まで耐寒マラソンをした。  
 昭和十四年 渋谷区常磐松小学校に転校。朝礼の後、明治神宮まで耐寒マラソンをした。

宿区)市ヶ谷小学校入学。その二ヶ月前に二・二六事件が起きていた。我が家は陸軍の戸山が原練兵場に近く、電車通りには戒厳令が敷かれ、ものものしい雰囲気の中、ザンザンという軍人の足音を聞いた記憶がある。

昭和十四年 渋谷区常磐松小学校に転校。朝礼の後、明治神宮まで耐寒マラソンをした。



## 激動の青春時代

仙台市青葉区 西牧敬子

女へ入学。当時、隣のクラスにはゾルゲ事件で逮捕された尾崎秀実(ほつみ)さんの娘、楊子さんがいた。

### 山本五十六のお通夜の自宅へ

昭和十八年 山本五十六連合艦隊司令長官が戦死され、女学校から友人と二人でお通夜の自宅に行った。

### 勤労働員の工場でハンダ付けを

勤労働員は、府立の為か他校より早く始まった。川崎の東芝柳町工場で電波探知機のおじさんから教えられた。工場のお入り時には「頭、みぎー」と号令を掛けなければいけなかった。

### 昭和十九年 一家で茨城県石岡に疎開。

父(※多田利男さん、元原町高校教諭、原高校歌の作詞者)は大日本滑空工業専門学校のドイツ語教授になった。私は茨城県立石岡高女に転校した。(裏面につづく)



「人間天皇」の巡幸  
(東京書籍『図説日本史』より)

巡幸する昭和天皇 天皇は1948(昭和21)年1月1日、「人間宣言」を発してみずからの神格を否定した。翌月から、天皇は神奈川県を皮切りに全国をまわり、「人間的・平和的な天皇」を国民にアピールした。

(表のページより)  
**いざ来いニミッツ、マッカーサー**

すぐに日立市の日立工場に勤労働員され、兎平(うさぎだら)女子寮に入寮した。毎日音波探知機を作った。鉢巻きを巻いて「いざ来いニミッツ、マッカーサー 出てくりや地獄に逆落とし」と歌いながら...

ある日、宮様が視察に見えたことがあった。休日であったので臨時出勤し、翌日が休みになったのだが、まさにその日、工場に一トン爆弾が落ちた。私たちは寮にいて命拾いをした。

**昭和二十年** 戦争が激しくなり父の実家の小池(※南相馬市鹿島区小池)に再疎開したが、すぐに終戦となり、私は石岡高女に戻った。

**天皇の地方巡幸で接待役に**

**昭和二十一年** 私は高女の五年生に進んだ。この秋、天皇陛下が地方巡幸で石岡高女に視察に来られた。

私は接待役の一人に選ばれ、当日は頭の前から足の爪まで清潔にするよう言われて、私は宮内省の方の担当になった。食事の後、陛下の残された野菜を見たが、セロリの後先が残され、真ん中だけちよつと食べられたようだった。

私達の展示作品には天覧の印が押され、お帰りのお土産にと、割烹室で栗を何回も何回も磨いた。

**昭和二十二年三月** 旧制五年で卒業した。

**両親に守られて今の私がある**

全く激動の青春時代で、まともな授業は戦後の一年間だけだった。直接空襲に合う恐ろしい体験はなかったけれど、東京での食料難は厳しく、お鍋を持って雑炊の行列に並んだりした。母は衣類を食料に変えてくれた。本当に両親に守られてこそ、今の自分があると思っている。

**平和の有難さをしみじみと**

男の孫が大学生になった今、戦争中の出陣学徒の壮行会のニュースを思い起こすと、平和の有難さというものをしみじみ感じているところである。(「はらまち九条の会」会員)

○文中の(※)の部分は、編集者が付記いたしました。

**◆今年も1月10日、新成人に『憲法』小冊子を贈呈◆**

**「ありがとうございます！」と新成人は明るく素直でした！**

若者に、生活に生きている「憲法」、特に「9条」の意義を理解していただくため、1月10日成人式会場の「ゆめはっと」前で、新成人に『憲法』小冊子を配布しました。

今年で3年目の贈呈になりますが、今年は新成人360名に配布。事務局員と会員の平野、木ノ下、菅野さんの9人で、「おめでとうございます」と声をかけながら、晴れ着姿の一人ひとりに手渡ししました。

ここ3年快晴に恵まれていますが、「ゆめはっと」入口は日陰で、北風も容赦なく吹きつけ、寒くて辛くて大変です。でも新成人の明るい笑顔や「ありがとうございます」の一言で寒さも吹き飛ばしてしまいました。

1月12日付『福島民報』相双版 ▶

憲法小冊子を新成人に配布  
はらまち九条の会  
南相馬市のはらまち九条の会は十日、「憲法」小冊子を原町、小高両区の新成人に配布した。



「憲法」小冊子を配布する会員

いる。原町区では成人式会場の市民文化会館前で、入場する新成人に手渡した。